

## 令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立瑞穂野中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

令和5年4月18日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語 149人

② 数学 149人

③ 英語 149人

#### 5 留意事項

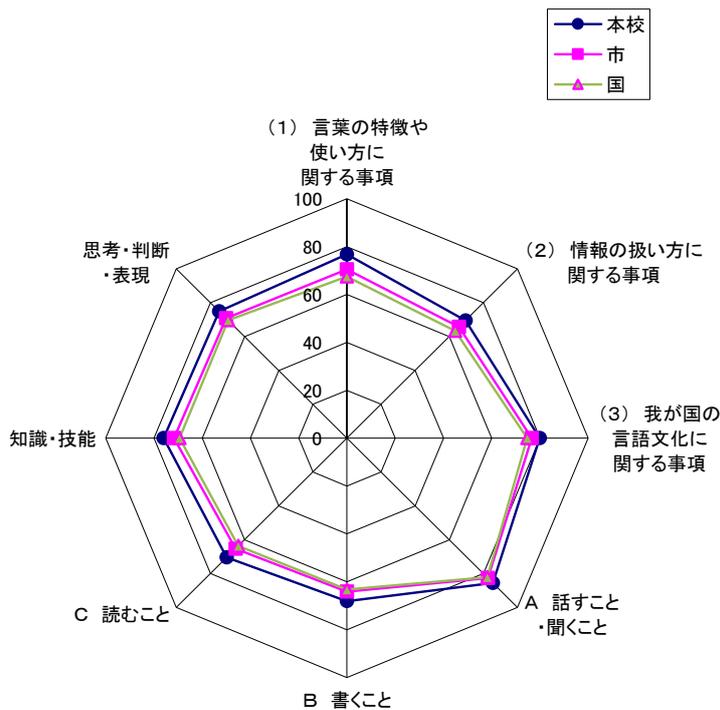
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、英語の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立瑞穂野中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	76.8	70.5	67.5
	(2) 情報の扱いに関する事項	69.5	65.7	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	79.9	76.6	74.7
	A 話すこと・聞くこと	85.5	82.6	82.2
	B 書くこと	68.1	64.1	63.2
	C 読むこと	70.5	65.3	63.7
観点	知識・技能	76.0	71.7	69.4
	思考・判断・表現	74.9	70.8	69.7
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

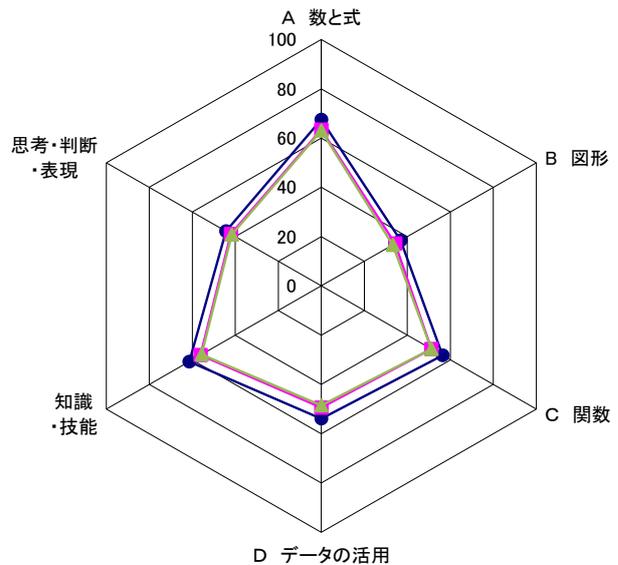
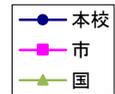
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	正答率は市を6.3、国を9.3ポイント上回っている。 ○漢字に関する出題では市や県の平均を9ポイント以上上回っていて、定着が見られた。 ●語の意味を類推する問題で、上回り幅が0.4ポイントに留まった問題があり、課題が見られた。	・漢字の学習については、教科書に登場した使い方以外の意味や用法についても理解できるように学習を促している。今後とも折に触れて取り上げていくようにする。 ・語句、語の意味については、不確かな部分が生徒によって異なるため、適宜練習を促すようにしていく。
(2) 情報の扱いに関する事項	正答率は市を3.8、国を6.1ポイント上回っている。 ○具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかをみる問題で、県の平均を2.8ポイント上回った。 ●意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる問題で上回り幅が1.6ポイントに留まった問題があり、課題が見られた。	・自分の考えを、根拠を明確にして書く活動を、今後とも継続的に行っていくようにする。その際、条件に従って書く練習や、前後の文脈から判断して適切な文章になるような課題を示すなどして、さまざまな視点から文章を適切に記述できるような力を養っていくようにする。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	正答率は市を3.3、国を5.2ポイント上回っている。 ○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる問題、古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉えることができるかどうかをみる問題の全問において、県の正答率を2.7～7.0の幅で上回っていて、古典に関する学習の成果が見られた。	・古典については、これまででも、学習のねらいやつまづきやすいポイントなどについて丁寧に理解を進めることを指導の中心としてきた。 ・今後とも要点を理解して古典を読む楽しみを味わいながら文法的な特徴や語の違いなどについても理解を深める学習を展開していきたい。
A 話すこと・聞くこと	正答率は市を2.9、国を3.3ポイント上回っている。 ○目的に沿って自分の考えをまとめることができるかをみる問題で、県や国の正答率を4.7～5.2の幅で上回り、表現の工夫について授業で扱った成果が見られた。 ●目的や場面に応じて質問する内容を検討することができるかどうかをみる問題で、上回り幅が大きくなった。	・自分の考えを、根拠を明確にして書く活動を、今後とも継続して扱っていききたい。 ・述べている内容について、正しく述べているかとともに、どのような目的や状況で述べているかについても理解を深められるような指導を心掛ける。
B 書くこと	正答率は市を4.0、国を4.9ポイント上回っている。 ○読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかをみる問題で、県や国の正答率を8.1～9.3の幅で上回り、表現の工夫について授業で扱った成果が見られた。	・自分の考えを、根拠を明確にして書く活動を、今後とも継続的に行っていくようにする。その際、条件に従って書く練習や、前後の文脈から判断して適切な文章になるような課題を示すなどして、さまざまな視点から文章を適切に記述できるような力を養っていくようにする。
C 読むこと	正答率は市を5.2、国を6.8ポイント上回っている。 ○観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかをみる問題で、県や国の正答率を7.9～8.8の幅で上回り、授業で記述の学習を多く取り入れてきたことの成果が見られた。	・話の内容を取り上げて、理解した内容を記述する学習を、今後とも継続して扱うようにしていきたい。 ・述べている内容について、正しく述べているかどうかだけでなく、どのような展開で述べているかについても理解を深められるような指導を心掛けていく。

# 宇都宮市立瑞穂野中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	67.5	63.4	63.0
	B 図形	36.9	34.3	33.2
	C 関数	56.4	51.2	51.2
	D データの活用	53.9	49.4	48.5
観点	知識・技能	61.4	56.2	55.7
	思考・判断・表現	44.3	42.1	41.6
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

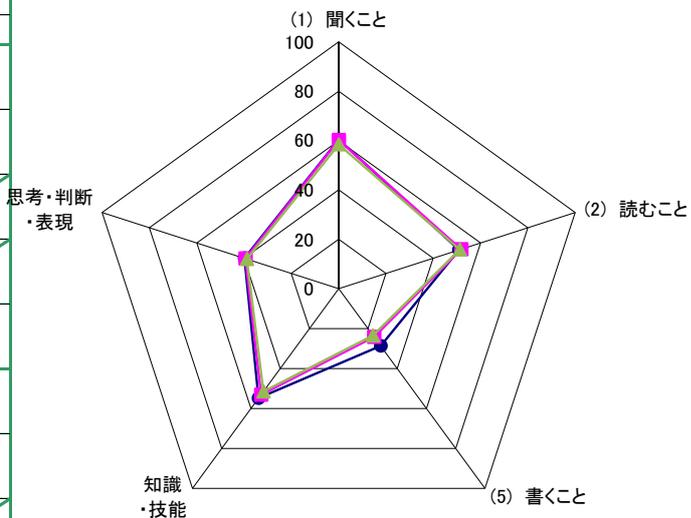
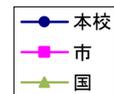
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	<p>正答率は、市を4.1ポイント、国を4.5ポイント上回っている。</p> <p>○数と式のすべての問題で、国・県を上回っている。</p> <p>●事柄が成り立つ理由を説明する問題では、無回答率が18.8%あり、正答率は47.7%と約半数が誤答であった。</p>	<p>・授業の最初に計算の小テストを定期的に取り入れて復習の機会を作り、知識・技能の確実な定着を図る。</p> <p>・説明問題に慣れるために、授業で問題を解く機会を増やしたり、定期テストに出題したりする。</p>
B 図形	<p>正答率は、市を2.6ポイント、国を3.7ポイント上回っている。</p> <p>○図形のすべての問題で、国・県を上回っている。</p> <p>●ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明する問題では、無回答率が22.8ポイントと高く、記述式の問題にも粘り強く解答しているが、正答率は34.9%と低い。</p> <p>●この領域の正答率は36.9%で、4領域の中で一番低い。</p>	<p>・図形の証明に関する記述力を高めるために、穴埋め形式を取り入れるなど支援の方法を工夫する。</p> <p>・いろいろな問題に触れる機会を作り、様々な図形の見方や思考の方法を身に付けさせるよう、指導を工夫する。</p>
C 関数	<p>正答率は、国・市ともに5.2ポイント上回っている。</p> <p>○反比例の意味を理解しているかどうかをみる問題では、国や県を10ポイント以上上回っている。</p> <p>●事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題では、国や県を3ポイント程度下回っている。</p>	<p>・比例・反比例、1次関数、2乗に比例する関数の表、式、グラフを比較しながらそれぞれの特徴をとらえられるよう、指導を工夫する。</p>
D データの活用	<p>正答率は、国を5.4ポイント、市を4.5ポイント上回っている。</p> <p>○累積度数の意味を理解しているかどうかをみる問題では、国や県を10ポイント以上上回っている。</p> <p>●複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題では、無回答率が18.1ポイントと高く、記述式の問題にも粘り強く解答しているが、正答率は35.6%と低い。</p>	<p>・計算では求められない確率の求め方にも自信をもって答えられるように、導入で多数回の試行を生徒に行わせるなど、生徒の印象に残るような指導ができるよう工夫する。</p> <p>・ヒストグラムや箱ひげ図などが用いられている場面を、身の回りで見つける活動などを取り入れ、データに親しめる指導を工夫する。</p>

# 宇都宮市立瑞穂野中学校第3学年【英語】分類・区別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【英語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	(1) 聞くこと	60.4	60.2	58.4
	(2) 読むこと	50.9	51.8	51.2
	(3) 話すこと[やり取り]			
	(4) 話すこと[発表]			
	(5) 書くこと	28.7	24.2	23.4
観点	知識・技能	54.8	53.1	51.5
	思考・判断・表現	39.8	39.4	38.8
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 聞くこと	<p>正答率は、国を2.0ポイント、市を0.2ポイント上回っている。</p> <p>○情報を正確に聞き取ることができるかをみる問題の正答率は、3問とも国県いずれにおいても5ポイント程度上回っている。また、社会的な話題について要点を捉えることができるかをみる問題では、国を6.3ポイント、県を8.8ポイントも上回った。</p> <p>●日常的な話題について、目的に応じて必要な情報を聞き取ることができるかをみる問題では、国を7.4ポイント、県を6.0ポイント下回った。</p>	<p>・基本文の導入などの際、生徒同士や生徒と教師間での英語でのやりとりを多く取り入れ、相手が話したことを正しく理解したり、即興で応答したりする活動を継続して行う。</p> <p>・様々な種類や内容の英文を聞き、耳を慣れさせる。</p> <p>・教科書の本文の内容に関する質問を英語で聞き取り、正確に答えられるようになるドリル活動を多く取り入れる。</p>
(2) 読むこと	<p>正答率は、市を0.9ポイント、国を0.3ポイント下回っている。</p> <p>○社会的な話題について書かれた短い文章の要点を捉えたり、事実と考えを区別して読み取ったりする問題では、比較的高い正答率だった。</p> <p>●日常的な話題について、自分の置かれた状況から判断して必要な情報を読み取る問題の正答率では、県は0.2ポイント上回っているが、国を2.3ポイント下回った。</p>	<p>・文法や単語に関する知識・技能、比較的長い英文を読み取る力は身に付いているようだが、内容によって難解に感じる生徒もいるようだ。今後は、様々な種類の長文を読む機会を増やし、生徒の視野を広げる活動を増やしていく。</p>
(3) 書くこと	<p>正答率は、国を5.3ポイント、市を4.5ポイント上回っている。</p> <p>○「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができるかを見る問題の正答率は、国、県ともに15ポイント程度上回っている。</p> <p>●社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書く問題では、正答率は国、県ともに6ポイント程度上回っているが、無回答率が28.2%と高い。</p>	<p>・各単元ごとに、自分の考えを書く活動を計画的に取り入れ、さまざまなテーマである程度まとまりのある英文を書く練習を継続的に行うことで、英作文に対する苦手意識を克服していけるようにする。</p>

## 宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年 生徒質問紙

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の肯定的な回答が100%であった。日常的に人権尊重に関しての啓蒙、学年集会や保護者会において計画的に生徒・保護者に啓蒙した成果だと思われる。

○「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の肯定的な回答が国を7.4ポイント、県を4.6ポイント上回っている。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の肯定的な回答が国・県のポイント上回っている。今後も生徒にとって信頼できる学校づくりをするためにも、小さなことでも励ましたり、日常的に声かけをしたりして距離感を感じさせずに自己肯定感を高める関わり合いを継続する。

○「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の肯定的な回答が国を8.3ポイント、県を7.7ポイント上回っている。総合的な学習の時間での『宇都宮学』における課題解決学習を通して、身近な地域に関心をもっていることがうかがえる。今後も地域のことを真剣に考えることのできる公民の育成を、全教科・領域で継続して指導していく。

●「国語の勉強は好きですか」の肯定的な回答が国を12.4ポイント、県を13.3ポイント下回っている。しかし、「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」についての肯定的な回答は国を3.9ポイント、県を0.9ポイント上回っている。国語の学習の必要性を感じているようなので、他の教科や日常生活の中で学習したことを応用したり関連付けたりすることができるような指導や体験学習を工夫して行っていくことで国語の学習に対する好感度が高まると思われる。

## 宇都宮市立瑞穂野中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎・基本の確実な定着を目指した指導の充実	・定期的にAIDリルの課題を設定し、学級担任が学習状況の進捗を把握して個々の生徒の学習支援を行う。 ・自主学习ノートを活用し、家庭学習の習慣を身に付ける。	「学校の授業以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」の回答では、「全くしない」の回答が国を5.3ポイント、県を3.2ポイント下回った。「土曜日や日曜日など学校が休みに日」では、国を6.5ポイント、県を1.5ポイント下回った。平日も休日も家庭学習の習慣が定着していると考えられる。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
学校の授業の予習や復習などを家で自分で計画を立てて勉強している生徒の割合が「ときどき」も含めても50%程度に留まっている。	学習に対する意欲を高め、計画的に物事に取り組める態度を育てる。	教科書、ノート、ワークブックを活用した毎日の復習を奨励をする。教科担任や学級担任が単元テストを区切りとした復習を奨励するなど、計画的に学習をしていくように助言をしていく。